



稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより No.5
令和7年 7月24日
文責 校長 遠藤隆典

【学校の教育目標】
りこうで 稲穂小 WEB
たっしやで
ほがらかな
稲穂の子



28日間の夏休み、自分の考え・アイデアを生かして取り組む経験を！

校長 遠藤隆典

今日で1学期が終了です。記録的な猛暑が続き、熱中症対応に追われた学期末でした。水筒持参など、ご家庭での体調管理のご協力に感謝いたします。連日、体育館やグラウンドでの活動ができず子どもたちにはストレスのたまる毎日でした。同時に、小樽市の教室へのエアコン設置のありがたさを痛感しています。過ごしやすい教室環境により、登校後に熱中症や体調不良になる児童は出さずに終えることができました。市の環境整備に感謝です。

暑い日の多かった1学期でしたが、子どもたちは日々一生懸命に取り組んでいました。7月の面談でお子さん一人一人の具体的な頑張りは担任から伝えていますが、お子さんが自己肯定感とやる気を高められるように、ご家庭でもたくさん褒めてあげてください。

さて、今年の夏休みは、28日間です。長い夏休み、子どもだけで過ごす場面が増えると思いますが、まず安全に気を付けて過ごすことを願っています。そして、普段なかなか経験できない夏休みならではの経験を重ねていくことを願っています。

先日、6年生の教室で、自分達のアイデアを行動に移したたのしい姿を観ました。それは、「いなほうそう」という報道番組を模して何人かで動画作成した取組でした。内容は交通事故防止を呼びかけるニュース番組調でしたが、画面のデザインや構成も含めてよくできていて感心しました。一番感心したのは、宿題や課題でもないことを子どもたちが自分達で考えて作品まで仕上げたことです。自分で考えてやるべきことに挑戦するという行動力がとてもうれしかったです。「交通事故のことなら警察に聞いてみたら」という親の言葉を元に、子どもたちは警察署にまで取材に行ったそうです。稲穂小として重点にしている「主体的な姿」につながる頑張りで、とてもうれしくなりました。



昨年の学校だよりで「小学生時にチャレンジングな経験をたくさんした子どもほど、高校3年生までに社会への関心が高く将来の目標をもつことができている」という全国の調査データに基づいた提言を紹介しましたが、子どもたちには、この夏休み、ぜひ「自分で考え・アイデアをもとに行動する」という経験をして欲しいと思います。うまくいかないことも含めて自分の経験です。じっくり育てる・採集する・調べる・つくる…自分が「はてな?」「やってみたい!」と思ったことに時間を忘れて取り組む経験の積み重ねが、「夢もった大人」、「やりたいことにたくましく挑戦する大人」「自分に自信をもって生きる大人」としての土台となっていくことでしょう。保護者の皆さまには、18歳になったときのお子さんの豊かな成長をイメージして、この夏休み中に、子どもに時間を委ねて、子どもが自分で考え行動していくチャレンジングな気持ちと行動を後押ししていただければと思います。よろしくお願いいたします。

8月22日(金)2学期始業式に、充実感あふれる笑顔で会えることを楽しみにしています。

熱中症予防、交通安全、海・川での安全行動で 楽しい夏休みにしましょう!

ふるさと学習 潮音頭を学びました！

小樽の「ふるさと教育」の柱である潮音頭、6月30日に全校児童が、藤間流師範藤間扇玉さんから学びました。

この踊り体験学習や潮まつりへのPTA 梯団での参加経験により、踊りを覚えている児童が多くなりました。子どもたちは、短時間でおどりを覚えて上手に踊っていました。「わっしょい、わっしょい！」や「いなほ！いなほ！」など、踊りを盛り上げるためのかけ声もアドバイスいただき、最後は、大きな円になり、かけ声を出し踊り進む練習をし、楽しく踊りました。小樽の夏の風物詩である潮音頭、小樽で育つ子どもが全員踊れるということは、とても素晴らしい事だと感じています。



25日から始まるおたる潮まつりにおいて、26日の潮ねりこみには、PTA 稲穂小・西陵中の梯団は、今年は何と300人を超える大梯団です。稲穂小開校130周年として参加者皆で楽しく盛り上がって思い切り踊って思い出づくりになればと思います。皆さま、どうぞご期待ください！ ※PTA 事務局の方に練習会からサポートいただきました。ありがとうございます。

自然の村で5年生が宿泊学習！～自然の中で仲間との絆を深める～



7月3・4日、5年生が宿泊学習を小樽自然の村にて行いました。部屋はテレビがない大部屋で、布団を敷いたりたたんだりすることに苦労しながらもカードゲームやおしゃべりで楽し

んでいました。夕食は、食材や道具をリヤカーで運び、かまどで火をおこし飯盒でご飯を炊き、カレーをつくりました。夕方の集会では、レクレーションゲームやキャンドル体験を行い、大きな声を出し全身で笑い合う姿や、心静かに全員で一つになる一体感のある姿が見られました。普段以上に仲間と声を掛け合い思いやり協力して過ごし、時には我慢して仲間に合わせてることの大切さも実感したことでしょう。様々なサービスや便利さが当たり前の中で成長してきた子どもたちにとっては、コンピュータ端末やスマホ、テレビがない環境は、五感がフルに発揮される新鮮で貴重な経験と言えます。この宿泊学習、仲間との絆を深められた心に残る学習となりました。

児童生徒性暴力等の防止等に関する教師の服務規律の徹底について

過日、国内の複数の教員が児童を盗撮し、画像などをSNS上で共有したとして逮捕される事件が報道され、全国に大きな衝撃を与えました。このような行為は、児童生徒等の尊厳と権利を著しく侵害し、児童生徒に回復しがたい心理的外傷や、心身に重大な影響を与えるだけではなく、学校への強い不安感や恐怖感を与える行為であり、決して許されるものではありません。

そのことを受け、本校でも「校長による児童生徒性暴力の防止に係る研修」「カメラ等の設置の有無についての施設内緊急点検」を実施しました。点検の結果、設置カメラはありませんでした。今後は、「スマートフォン等の私的な端末を利用した児童生徒の撮影禁止」「管理職の許可なく児童生徒の画像を学校外へ持ち出さない」を徹底していきます。（授業や学校行事の様子は学校のデジカメ等を使用していきます。）また、今後も安心・安全な環境となるよう施設内の環境整備及び安全の確認を日常的に行っていきます。

★万一、こうした児童の性暴力等について相談したい場合、本校では、鎌田主幹教諭と佐川養護教諭が窓口となります。いつでもご相談ください。

また、「子ども相談支援センター」でも相談を受け付けています。

電話相談：0120-3882-56

メール相談：sodan-center@hokkaido-c.ed.jp （こども相談支援センターHP↑）

